

索引

— A —

ADB……128, 129

— B —

BHN……32, 34, 36, 125, 149, 150

— C —

CDD……9, 166, 167, 189

CDF……36, 144, 155

— D —

DAC新開発戦略……4, 5, 29, 35, 124, 154,
158

DFID……64, 88, 89, 142, 158, 160, 172, 173,
174, 175, 176, 178, 182, 183, 186,
187, 188

— E —

ESAF……93

— F —

FAO……164, 165, 167, 188

— G —

GOVNET……117

GTZ……47, 49, 51, 89, 126, 143

— H —

HIPCs……36, 155

HIPCイニシアティブ……4, 5

— I —

IDGs……4, 5

IMF……4, 5, 10, 19, 29, 30, 33, 35, 57, 60,
77, 78, 88, 93

— J —

JBIC……142

JICA……8, 22, 24, 26, 28, 91, 120, 126

— K —

KfW……126

— L —

LICUS……19, 125

— M —

MCA……20, 124, 126, 137, 143

MCC……18, 19, 20, 137

— N —

NEPAD……124

NIEO……32

NIES……33, 64, 71

— O —

OECD/DAC……44, 47, 49, 50, 89, 95, 100,
101, 117, 118, 124, 125, 143, 154

— P —

Poor Performer……11, 125

PRA……164
PRGF……93, 155
Pro-poor growth……9, 24, 37, 38, 39, 40,
41, 42, 43, 47, 48, 49, 50, 51, 53, 54,
85, 86, 88, 89
PRSC……93, 94, 126, 135
PRSP……3, 4, 5, 13, 15, 17, 18, 19, 27, 29,
30, 35, 95, 103, 126, 129, 155, 158,
159, 160, 163, 166, 168, 174

— R —

RRA……164, 166

— S —

SAL/SAC……93
S & D……70
Sida……47, 48, 49, 50, 85, 89, 185
SL……158, 159, 160, 172, 173, 174, 176,
177, 178, 179, 180, 181, 182, 183,
184, 185, 186
SPA……117, 144

— T —

TRIPs……69, 70

— U —

UNCTAD……67, 68, 69, 86, 90
UNDP……30, 34, 35, 39, 47, 48, 49, 53, 57,
58, 85, 90, 138, 144, 153, 158, 159,
160, 169, 172, 173, 178, 179, 180,
181, 183, 186, 187, 189
UNICEF……33, 150, 158

— W —

WID……151, 185
World Bank（世界銀行）……29, 30, 43,
46, 47, 49, 51, 57, 58, 60, 67, 78, 82,

86, 88, 89, 90, 96, 100, 102, 106, 109,
110, 113, 118, 125, 139, 140, 142,
143, 144, 145, 152, 157, 158, 161,
166, 167, 187, 189, 190

WSSD……7

WTO……19, 55, 58, 60, 67, 68, 69, 70, 84,
89

WTOドーハ閣僚会議……69, 70

— あ —

アカウントビリティ（→説明責任）……
16, 22, 27, 51, 100, 102, 105, 106,
121, 122, 130, 131, 133, 135

— い —

イヤーマーク……133, 134

— う —

ウルグアイ・ラウンド……67, 70

— え —

エージェンシー……101

援助の選択性（→援助の選択的实施，セレ
クティビリティ，選択的援助）……
92, 121

援助の選択的实施（→援助の選択性，セレ
クティビリティ，選択的援助）……
92, 122, 124, 125

援助モダリティ……22, 26, 27, 28, 129

エンタイトルメント……178

エンパワメント……11, 13, 51, 52, 86, 129,
147, 148, 155, 157, 158, 159, 160,
161, 163, 164, 165, 166, 167, 168,
169, 170, 171, 185

－ か －

海外直接投資……9, 55, 60, 62, 64, 71, 72,
74
外部性……97
家計調査……39, 43, 46, 54
環境と開発に関する世界委員会……152
間接投資……36, 56, 62, 75

－ き －

金融抑圧論……75

－ く －

クズネットの逆U字仮説……44
グローバル・ガバナンス……56, 84
クロスカントリー分析……43, 44, 45, 54

－ け －

経営主義……99
ケイパビリティ……34, 153, 178
権利を基盤としたアプローチ……158

－ こ －

交易条件……64, 122
公共財……82, 97, 98, 118, 161
公共支出管理……17, 105, 106, 107, 109,
112, 113, 114
構造調整……10, 17, 18, 29, 32, 33, 34, 39,
75, 91, 93, 94, 96, 115, 135, 150, 151,
152, 155
国際金融システムのアーキテクチャー……
78
国連ミレニアムサミット……158
コモン・ファンド……14, 22, 26, 68
コンディショナリティ……75, 94, 115

－ さ －

財政規律……106, 112, 113
財政支援……14, 19, 22, 26, 112, 121, 126,
127, 131, 132, 133, 134, 135

－ し －

市場の失敗……31, 50, 96, 97, 98
ジニ (Gini) 係数……43
市民社会……5, 11, 14, 19, 21, 25, 26, 27,
36, 74, 83, 91, 97, 105, 106, 110, 118,
122, 124, 139, 154, 155, 163, 167,
168, 185, 186
社会開発サミット……153, 154, 155, 157
社会関係資本……52, 176
社会的統合……166
社会的保護……129, 155, 157
収斂理論……43

－ せ －

成果重視 (→成果重視のマネジメント, 成
果によるマネジメント) ……4, 8,
11, 91, 94, 96, 99, 105, 106, 126, 136,
161
成果重視のマネジメント (→成果重視, 成
果によるマネジメント) ……8
成果によるマネジメント (→成果重視, 成
果のマネジメント) ……100, 106,
119, 121, 122
政府の失敗……98
セクター・ワイド・アプローチ……135
絶対貧困……32, 40, 43, 46
説明責任 (→アカウンタビリティ) ……
10, 16, 27, 74, 80, 100, 102, 103, 104,
105, 106, 118, 161, 163, 166
セレクトイビティ (→援助の選択性, 援助
の選択的实施, 選択的援助) ……9,
11, 22, 26, 28, 91, 92, 121, 122, 123,
125, 129, 130, 131, 132, 133, 135,
137, 138

選択的援助（→援助の選択性、援助の選択
的实施、セレクトイビティ）……9,
11, 22, 28, 91, 125, 126

— そ —

相対貧困……43
ソーシャル・セーフティ・ネット……3,
39, 150, 151
ソーシャル・ファンド……134

— ち —

地球公共財……82, 83, 88

— と —

トリクルダウン仮説……31, 32

— に —

ニュー・パブリック・マネジメント……
8, 11, 91, 101, 138, 139, 141, 161
人間開発……11, 53, 88, 138, 141, 153, 160,
181, 183, 186
人間開発指標……138

— ひ —

貧困弾力性……42, 46, 48, 49, 50

— ふ —

ファンジビリティ……27, 123, 135
ブルントラント報告書……152
プログラム援助……96, 126

— へ —

平和構築……1, 22, 24, 25, 28

— み —

ミレニアム開発目標……2, 5, 6, 10, 17, 20,
35, 158

— も —

モンテレイ国連開発資金国際会議……20,
137

— れ —

レジーム……17, 28, 29

— わ —

ワシントン・コンセンサス……57, 58

本書の内容は、研究会の見解をとりまとめたもので、必ずしも国際協力機構の統一的な公式見解ではありません。

本書および他の国際協力機構の調査研究報告書は、当機構ホームページにて公開しております。

URL : <http://www.jica.go.jp/>

なお、本書に記載されている内容は、国際協力機構の許可なく転載できません。

援助の潮流がわかる本

—今、援助で何が焦点となっているのか—

2003年12月25日 初版発行

編著 国際協力機構 国際協力総合研修所
〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
FAX : 03-3269-2185 E-mail : jicaic2@jica.go.jp

発行 株式会社 国際協力出版会
〒151-0053
東京都渋谷区代々木1-58-1 石山ビル7F
TEL : 03-3372-6771 FAX : 03-3372-6840

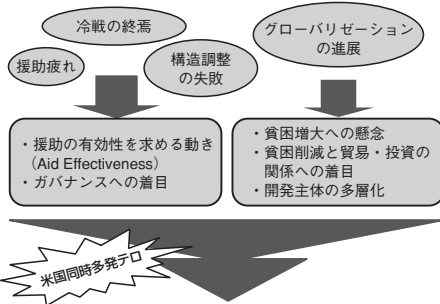
印刷 こだま印刷株式会社
取扱 東京官書普及株式会社

©JICA 2003
ISBN4-906352-45-6 C0030 ¥1800

援助の潮流がわかる本

今、援助で何が焦点となっているのか

援助戦略・アプローチの流れ 概念図



現在の援助戦略・アプローチ

援助戦略面

- 援助の上位目標が貧困削減へ収斂
- ・ 包括的なアプローチ (PRSP、MDGs等)
- ・ ガバナンスへの着目と配慮
- ・ 社会開発の主流化
- ・ 成長と貧困削減のバランスのとれた施策
- ・ 開発における貿易・投資の役割の一層の重視
- ・ 平和構築への着目

援助アプローチ面

- 効果的・効率的援助アプローチの模索
- ・ プログラム型援助アプローチの導入と試行
- ・ 新しい援助モダリティの検討
- ・ セレクティビティ (選択的援助) の導入
- ・ 援助協調の促進
- ・ 能力開発への着目

■調査研究の背景と目的■

近年、PRSP (貧困削減戦略ペーパー) やミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) などに代表されるように、貧困削減への関心が高まっている。貧困削減のためには包括的な取り組みが必要であり、先進国・途上国の官民含めた開発関係者が連携して資源を効率的・効果的に活用していかなければならないとの認識が広がっている。このような状況を踏まえ、新たな援助アプローチや援助戦略が次々と打ち出されており、それらが世界の援助の方向性に多大な影響を与えている。

大きく変化する現在の新しい援助アプローチ・戦略の変遷や概要を把握し、わが国としての考え方を整理しておくことは、主体的に開発アジェンダを設定し、効果的な援助を実施していく上で必要不可欠である。そのため、本書ではすべてのセクターにかかわってくる開発経済、政治・行政、社会開発について、昨今の援助戦略・アプローチを分析するとともに、それぞれの分野における重要文献を解説つきで紹介している。

■総論：開発をめぐる昨今の援助動向■

冷戦の終焉や先進国の「援助疲れ」、構造調整の失敗などから、1990年代になると援助の有効性 (Aid Effectiveness) を高めようという議論が起こり、援助の有効性を左右するものとして途上国のガバナンスに注目が集まった。

一方、技術革新と規制緩和・自由化などによるグローバリゼーションの急速な進展の中で、貿易や海外直接投資が貧困層に与える影響が議論されるようになっていく。また、民間部門や市民社会も重要な開発主体であるとの認識がますます高まることにも、政府の役割も改めて見直されている。2001年の米国同時多発テロを契機に、世界の関心は貧困問題とテロとの関係や平和構築に向けられてきているという状況もある。

このような背景の下、近年、国際社会では援助の上位目標が「貧困削減」に収斂され、これを達成するために包括的な援助戦略と効率的な援助アプローチが模索されている (図参照)。

このような国際的な開発援助の潮流を踏まえ、今後わが国が課題として取り組むべき諸点は以下のとおり。

- ・ 援助戦略上の課題：
貧困と成長や貿易・投資との関係、平和構築
- ・ 援助効果を高めるアプローチ上の課題：
能力開発、セレクティビティ (選択的援助)、適切な援助モダリティ、オーナーシップ・パートナーシップ・アカウントビリティの関係整理
- ・ 日本の経験とリソースの活用：
経験の体系化、市民参加

■開発経済における動向■

1990年以降の開発経済の特徴としては、①貧困削減の主流化、②開発課題の多様化・包括化および開発アクターの多様化、③グローバリゼーションの進展、がある。これらを踏まえ、本書では貧困削減に資する成長戦略 (Pro-poor growth) とグローバリゼーションの途上国への影響を取り上げて分析した。

(1) 貧困削減に資する成長戦略

経済成長は持続的な貧困削減の必要条件であるが、同じ成長率でも国によって貧困削減の度合いには違いがある。成長を促進させると同時に貧困を削減する戦略については研究が重ねられているところであるが、以下の政策が特に重要であるとの合意ができてきた。

- ・ マクロ経済の安定
- ・ 法的・制度的なガバナンスの整備
- ・ 貧困層の社会・経済資本へのアクセス改善

(2) グローバリゼーションと途上国

グローバリゼーションは途上国の経済成長と貧困削減に大きな機会を提供する可能性を持っている一方、グローバリゼーションの恩恵を受けることができない国や人々も多数存在する。途上国がグローバリゼーションの機会を活用し、不利益を回避するために、途上国自身が取り組むべき課題としては以下のものがある。

- ・ 貿易・投資を促進する環境整備
- ・ 社会サービスの充実
- ・ セーフティ・ネットの構築

援助の役割としては以下のものがある。

- ・ 途上国のグローバリゼーション参加支援
- ・ 民間投資への橋渡し
- ・ 債務救済

今後の課題としてはグローバル・ガバナンスの構築とグローバル化できない国や地域に対する対応がある。

■政治・行政における動向■

1990年代以降、構造調整への反省、途上国の民主化・市場経済化の進展、冷戦終結と先進国の「援助疲れ」、先進国内の行政改革などを背景として、援助の新しい目的・条件設定を模索し、援助効果の説明を求める動きが出てきた。その結果、援助が効果を発揮するには途上国のガバナンス改革が重要との認識が広がった。このような動きが途上国の公共部門改革の推進や援助効果が上がる国・手法を選定しようとする動き (セレクティビティ) に結びついている。

(1) 途上国の公共部門改革

現在、多くの途上国で民主化、市場経済化を目指した成果重視型の公共部門改革が進められている。公共部門

改革では次のような制度・仕組みの見直し・再構築と人材管理・制度・仕組みの見直しが行われている。

- ・ 制度・仕組みの見直し：地方分権、税政・徴税制度改革、公共支出管理、国営企業改革
- ・ 人材登用・管理制度の見直し：公務員改革

多くの途上国で何らかの形で公共部門改革が進められており、公共部門を対象にした協力を実施する際は改革の現状を十分把握して対応を検討すべきである。

(2) 援助の選択性 (セレクティビティ)

援助の有効な利用のためには途上国の状況に応じて援助対象を絞り込む必要があるというセレクティビティの考え方が1990年代より議論されている。

セレクティビティは選ばれなかった国を切り捨てるというものではなく、国に応じた適切な援助を実施するというものである。セレクティビティの基準は援助国によって異なるが、政治・行政分野の状況を重視する傾向がある。セレクティビティに基づく援助実施に際しては、①選択基準となる援助指針の明確化、②援助対象にならなかった国への対応、③援助様式の選択、などについての検討が必要となる。

■社会開発における動向■

1990年代より、社会開発は「開発の目的として達成されるべき人間の自助自立と社会正義の実現」として経済開発と並ぶ重要な開発課題と位置づけられるようになり、より広がりを持った包括的な社会開発の必要性が認識されている。このような動きの中で、「参加・エンパワメント」の位置づけや実践に変化が見られる一方、「持続可能な生計 (Sustainable Livelihoods: SL)」のように社会開発の概念を実践に統合しようとする動きも始まっている。

(1) 参加・エンパワメント

PRSPアプローチの流れの中で参加・エンパワメントの概念は幅広く包括的なものになり、従来の考え方に加え、以下のような考え方が加わった。

- ・ マクロ、メソレベルの政策プロセスでの参加・エンパワメント
- ・ 人権としての参加
- ・ 市民的責務としての参加

参加・エンパワメントを測定する指標の開発が今後の課題となっている。

(2) 持続可能な生計 (SL)

SLは貧困層の生活に影響する多様な要素を全体像として捉え、包括的な貧困対策の構築を目指すものである。SLは実践例に限られており、さらなる概念整理、具体的な手法や指標の確立など課題は多いが、貧困の多様な要因を総合的に捉えようとする試みであり、今後とも注視していく必要がある。



〈キリトリ〉

